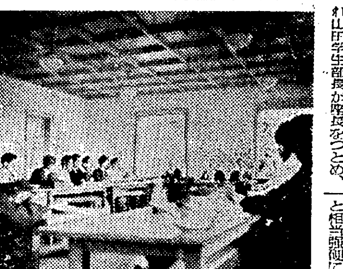
関西大學新報

発行所
大阪府吹田市千里山
関西大学法文学舎内
関西大学新聞部
電話番号 吹田125番
編集 発行人 森谷具欣
印刷所
日本新聞組版会社

写真は三十年来
関西大学御指定の
佐々木写真館
豊中市豊島運稲荷神社前
電話豊中四一六二番
連絡は関大厚生部へ

学審うやむやの中に終る……
授業料問題 結論を得ず


【写眞】中央左より宮島理事長・山田学生部長・福島法学部長・大小島文学部長

去る三十日、六時十五分より大学院二階に於て学生側要求による授業料問題に関しての学内審議会が開かれた、当日岩崎学長は欠席され山田学生部長が座長をつとめ、学生側より休暇中の値上げ決定の件、校費の性格、使用目的、又昨年度余剰金八百六十万円をめぐり〝値上げをしてまでなぜ残すか〟と相当強硬に質疑応答がくり返えされ、学生の授業料値上げばかりに頼らない方針について考えて貰いたいと強調すれば、宮島理事長はこれらの問題に関して

今年の値上げについては昨秋より考えていた、大学院、教授研究室、大学院図書館を新設するのに一千五百万円という金がいる一千万円は今年度に於てつくられるが、五百万円は来年度に寄附金か値上げかによらなければ致し方ない

又、早稲田、慶応大学がすでにやっている寄付保険を本学でもやるつもりだ、これは保険会社がその学校の関係者に寄付をつのって歩くもので保険料の三分が学校に入る、これが拡大されて行くと学費の値上げをしなくて済むだろう、又昨年度の余剰金は使うべきものを使わないで残したり、始めから余剰金を見積っての経営ではなく、節約によるものだ

と述べ専門部学生側より授業内容の貧弱と昨今の経済事情の悪化から値上げよりむしろ値下げする方が当然といえば、山田学生部長は経済事情の悪化については一般他校の場合にも表れる、今一、二年がこの額であるということもいえると述べ、柱経理局長は

授業料値上げによる増収は七百万円であり、教授の二割増額、その他一時費も出せるし、研究室、図書館、校門の新設等に当てられると思う

と語り、これに対し学生側は新制大学を中心にして行くべきだ、大学院にこりすぎる感がある、学生の現実の負担能力を考えてほしいと語れば、榎本教育後援会長は学校が経営上どうしても止むを得ないのならば致し方ないが値上げをするからには学生達が要求しているような価値のある内容をもったものにして貰いたいと最後に語り、学生側の要求はならずうやむやの中に九時閉会となった

学生大会へ持込みか
学生側の意見強硬

席上、宮島理事長からもらした「来年度五十万円を寄附金または授業料値上げにより計上する……」という言葉は学生に不安の念を抱かすという点と、学長と理事長をめぐる値上げ問題に対する意見の喰い違いから、学長と理事長との出席を求め学生大会を催し、全学生の前で判然とした返答を求めるという態度を学生側は閉会間際において表明した

廿日まで延期さる
＝授業料納入期日＝

前期授業料納入は五月三十一日迄とされていたが、学生側交渉の結果理事より六月廿日に納期を延期する旨通達があった

尚、分納許可者は第一回掛六月廿日、第二回七月廿日にそれぞれ延期された

論説
イ事件への反省

東北大におけるイールズ声明をめぐる学生運動は潜在の状態から顕在の状態へと活発になってきた。即ち、司令部が派遣された講師の講演に対して組織的妨害を行い遂に中止のやむなきに至ったという革命的な労組にも前例のない勇敢なる前衛斗士が学生の間から続々と現れている。このような学生運動の動きに対して「勉学と修養を本分とする学生が当局の権威を侮し、学園の秩序を乱しまことに憂うべきことである」とある者は説き、ある者は「運動は表面学問の自由を高唱しつゝも実質は米國に対する反抗である」といい、われわれの純粋な良心への抗議を斯くの如き暴言で踏みにじるなど暗激する斗士よ、しばしまて。じつくりと反省して見ようではないか。

全学連は三月十日、十一日第二回都道府県代表者会議と全國新制大学自治会代表会議でのイールズ声明に対する基本的な方針、赤色教授追放の反対斗争の方針として「いかなる事態が起ろうとも毅然たる確信と態度をもつこと」を決定し学生運動の方向を明らかにしイールズ氏來朝の場合はそれが必要であることを強調している。東北事件後全学連中執委の見解は、イールズ氏の講演はポツダム宣言の「言論、宗教、思想の自由と基本的人権の尊重」と極東委からマ元帥にあてた日本教育制度の原則による、極東委構成國の義務に違反していることを第一に指摘し、イールズ氏講演に対する要請は、憲法ならびに教育基本法に示された学問の自由に関する規定違反であると唱え、最後に、東北大その他全國の大学の紛争は、一部左翼学生だけの動きではなく、戦争に反対し自由を愛する日本人民の抵抗運動である、と結んでいる。

全学連の見解はそうであっても当局はあくまで共産党細胞の計画的行為であると断定し、これらの間に再び注目すべき事態が起きている。それは、共産党東京都地区委員会から東大と早大、全学連書記局の細胞が解散を命ぜられたことである。このことは、かれらがすでに日共幹部の統制の外にはみ出していることを示し、その経過から観ずればかれら自身の自主性に立った行動であると言い得る。

そこで細胞に解散命令を発するに至ったのであろう。この点において、かれらは共産党に盲従するものではなく、かれらの真理を守る忠実なる斗士である。学生としてのほこりがそこにあるのだ。われわれの持つ「純心さ」がそれであり、世俗のアカに染まず、純正一途に進むのがそれである。これ故にこそ学生は現実のあらゆる利害斗争に対して厳正なるアンパイアであり、「正しきもの」の味方である。しかし、かゝる「精神貴族」の名に値する学生が講演者の発言を暴力的手段によって妨害、制圧した事実は遺憾と言わざるを得ない。かれらはイールズ氏の資格を「公私何れか」としつこく追ったが、この場合資格は問題でなく、彼の発表する意見が合理的か否かが重要ではなかったのか。彼の意見は命令でもなく、指令でもなく、ただ勧告するだけだ。受け入れるか、受け入れないかはわれわれの自由にあるのだ。この「自由」を尊重しようまた聞くべき自由も尊重し、大いに聞くべきである

諸兄よ、約束しよう「われわれは冷い戦争のどの國にも味方するものではない。われわれは「自由」と「真理」と「正しきもの」にくみするものである」と。

六月、反戦けっき大会開くか
幹事会席上 社研など六團体同調

イールズ声明に対する東北大、北大の学問に対する自由、思想の自由の叫びは全國官公私立大学に異常な反響を呼び、学園における平和への戦いの叫びは全國的な問題となっているが、本学においても平和への戦いの為に学内の民主戦線統一の動きが活発となって來た、去る五月十日学術研究会並に体育部の幹事会総会は天六学舎において開かれたが、規約審議の後、新しく申出た朝鮮文化研究会（責任者法三高田晋三君）を満場一致はく手をもって承認、続いて中央委員選出に移ったが投票の結果鈴木君（演劇部）小久保君（近文研）和田君（社研）楠木君（政経研）島崎君（弁論部）が当選した、幹事長選挙は新中央委員五名によって行われ開票の結果、幹事長に鈴木君、副幹事長に小久保君が当選し、最後に緊急動議として和田社研委員長立って学内民主戦線の統一を強調、これに満場はく手をもって應えた

この学内戦線統一の動きは細胞の提唱を中心に社研に申込まれ、これに政経研も賛同し急速に学内の民主戦線への統一に対する機運が上って來たもので現在これに対しての統一を具体的に申込んで來ているのは細胞、社会科学研究会、政治経済研究会、弁論部、演劇部近文研であり、六月初旬ごろ学内において学生反戦けっ起大会の開催の準備が着々と行われている

思想学問の自由を強調
弁論部野田で街頭遊説

弁論部では五月十七日六時より西野田工業高校において学生四百名を前に、現在日本の國内状勢・國外状勢に鋭い批判のメスを加え学生としての常識・学問の自由・思想の自由を強調して学生大衆に多大の感銘を與え、終って野田阪神駅前で聴衆二百余名を前に弁論部幹事岡本君は学問・言論の自由・日本の戦争放棄を強調、次いで和田君立ち日本の軍事基地化と戦争に導く単独講和に反対せよ・全面講和のために戦え・ポツダム宣言の厳正実施など烈々たる言辞をもって叫んだ

和田君の弁論中、二、三の者が演説を妨害したが聴衆の憤激と怒号にけ散らされた

たゞ戦うのみ
渡米拳斗選手を送る

去る五月十八日経商学舎講堂においてアマ・ボクシング大会に出場する井上康（ライト級）楠本昌二（バンダム級）両君の派遣歓送会が応援団主催によって行われた両君は四月八、九、十の三日間東京芝のスポーツ・センターで開かれた決勝大会に優勝し、今月中旬ハワイで開かれるボクシング大会に晴れの日本代表選手として渡米することになっている

席上井上選手代表は大要次の如く挨拶を行った

私達二名は渡米の暁にはスポーツ・マン精神により終始敢闘、対戦にはトップコンディションにて斗います

続いて学生代表清水君が両君を激励し

我々が両君に願うことはたゞ戦つて下さいというのみである、[illegible]関大学生の諸君、われわれは最後に両人の勝利を祈ろうではないか

と激励し一同起立のうちに学歌・應援歌の斉唱が行われた

編集権ヨーゴに明声書発表
全学新関西総会開く

全日本学生新聞連盟関西支部総会は五月十三日京都龍谷大学図書館会議室に関大新聞、京大等参加十七校参集のもと開かれ本紙からは森谷主幹、中村記者の二名が出席、来月開催予定の関西支部学校の新聞コンクール及び大阪京都両地区の学生新聞記者クラブ設置全國大会等の議事項目の審議を可決、次いで緊急動議として龍大新聞社より應援団問題にかゝる編集権ヨーゴの声明書および「平和に関する宣言」の要請に対し審議により「平和宣言」を可決全國大会に提案することにし、編集権ヨーゴの声明書を発した

声明書

最近の各所に発生する学園自治会活動の弾圧と、これにともなう学生新聞の編集権の侵害にかんする事実にたいして、われわれ全日本学生新聞連盟関西支部はあくまで自由と公正を守る新聞として、プレスコードにのつとり編集権確立のために努力することを期する

右声明する　五月十三日
全日本学生新聞連盟関西支部

大人氣がない
イールズ講演妨害をつく
岩崎学長談

岩崎学長は去る十九日約一時間半にわたる本紙記者團との会見においてさいきん全國的に起りつゝあるイールズ声明事件をはじめ問題とされている諸点につき大要次の如く語った（写眞は岩崎学長）

◇…イールズ博士の講演について東北大・北大の学生たちがとった妨害行為は余りにもおとな気のないものだ、講演途中で妨害するということは外来者に対するエチケットにも反するもので何も途中から騒ぎださなくとも終りまで聞いてもよいと思う、東北大でも北大の場合でも小数の指導者に引張られているような形勢が見受けられる

◇…関西大学には社会科学研究会はあるが学内細胞というものはありえない、私は学校が公認して学内細胞を認めている学校は学長が特定團体を支持するという観点よりして、学長自らが一種の政治活動をとったと見てよいのではないかと思う

◇…吉田総理が南原総長に対し〝曲学阿世〟といって反論をあびせかけられたが、自分としては南原さんの線に対して賛成する、さいきんの新聞紙上をにぎわしている全面講和、単独講和については、いずれにせよ事実は新聞社のおくそくに過ぎぬもので確定的な印象を受けるが事実は講和問題あるいは他の問題についても政府のとっている一方的な処置については絶大な不満をもっている、一方的といえば東大細胞に対する共産党よりの解散命令の件だがこれを南原さんがやったことなれば恐らく昨年京大に見られたような学長の〝かんずめ事件〟が持ち上っていたことであろう

◇…こんどの参議院選挙については社会党より度々立候補を勧告してきた殊に社会党の片山哲氏よりは強硬に立候補を要求してきたが私は教育者である以上政治に手を出さない旨を述べておいた

◇…私の渡米問題については、従前私大協会の方で候補者三名を選定した結果、早大・同大・関大の各学長が選ばれ第一回は同大湯浅学長が渡米して來た、第二回目はまだなんらの通知もない

◇…千里山パークの件については本学理事者の方で直接京阪の方と交渉中であるが、私は理事長に「関大でお買いなさい」といっている、しかし学長が授業料値上げを拒むようでは致し方ない（授業料値上げとは現在三、四年次の六千円を二、三年次なみに値上げする）吹田市会でもパーク譲渡し問題については猛烈に反対しているが関大で買取ることに対しては了解している同パーク買取りのあかつきには一商、一中を千里山に移して一大学園を拓き、天六は短期大学一本にして充実したい

◇…大学院の教授研究室と学生ホールを大学院校舎前に設立のため今年中に工事に着手する、研究室は木造二階建で上二階を十二室に分け一階を六室にして学生の研究室とする、また大学院学舎内に図書室を別に設ける

◇…専門部長である高橋盛孝教授はアメリカのロックヘラー財團から留学の招へいにより渡米されるということである、また宮嶋理事長の所へフランスから一教師が日本へ来て各地で講義するらしいがその際関大でも一日講義をしてもよいといって來ている、いずれもその時期は不明である

特約 Radiopress 本紙

世界は動く
コールド・ウォーは次第に解決へ

【ロンドンBBC放送（ヘンリー・ポプキンス記）＝RP特約】米、英、佛外相会議がロンドンにおいて西欧防衛政策の確立、ドイツ問題、中國本土における共産主義者の勝利とともに共産主義の脅威が増加したところの東南アジアの問題について討議された、一方シドニーにおいては英連邦代表が経済的に如何に共産主義者の脅威から東南アジヤを救うため援助することができるかについて討議した

しかし現在の世界情勢の焦点はこの三國外相会議に集り、これは全世界の自由國民の運命がこの三國外相の双肩にあるといっても過言ではない、すなわち自由が保障できるか、ソ連共産主義の奴隷化せんかこれは実にこの会談にかゝっているのである、アチソン長官は外交は戦争をさけるものであると述べている、しかし過去十二ケ月の間全世界を通じて、自由と真の民主々義の努力が大きい損害を受けたということは否定できない

共産主義イニシアチブをとる

ヨーロッパと極東において事実上何れにしろソ連の政治局であるところのコミンフォルムはイニシアチブを取り西欧におけるマーシャル計画、北大西洋同盟欧州議会を通じて行われて來たスピーディな進歩はこのテンポを緊め極東における中國共産党の勝利は全体の勢力均衡を破し、今日東南アジヤの自由諸國は彼等の浸透と共に文字通り戦の中にある、そしてそれは極東の各地において見られるのである、例えばインドシナにおいてソ連共産主義にホー・チミン共産軍に対して斗うヴエトナムとフランス連合の防衛を妨げているマレーにおいても共産主義者の浸透に関して大衆の問題の処理のために英國政府は最後の試みをなさんとしているが満足に行っているということは出來ない。テロの問題は英國政府にとり依然として重大問題である、ビルマにおいてもカレン族の特権承認の強硬な拒絶に政府組織自体の弱さはカレン族をして敵である共産主義者と手を組ましめ、混沌なる戦へ導いている、もしも共産主義者が北部地帯をビルマにおいてもインドシナにおいても統一したならば、民主勢力による東西アジヤの管理は危険に落込むであろう、シャムにおいてもマレーにおいても殆んど絶望的でありインド、パキスタン、フィリッピンさえも影響を受けるであろう、滿州においても次第に活動的になり発展しつゝある共産主義は日本へもその勢力を伸張するかも知れない

解決は太平洋同盟にありや

私達はよくこの問題の解決方法は太平洋同盟にありとして討論されているという、この同盟は東南アジアの各國を含むばかりでなく、この地域に大きい責任をもっている米英両國を含むのであり、さらにまた以前植民地をもっていたフランス、オランダ、現在マカオ等を支配しているポルトガル等を含むものである、そしてこの同盟はカナダ、オーストラリヤ、ニュージーランド、インド、パキスタン等英連邦各國の参加なくしては全きものであるとは言い難い

この計画はスペンダー外相が首唱しそして彼の議会における発言により次第に発展して来た しかしこれにも大きい犠牲が必要である、即ち財政的重荷はアメリカに委ねねばならず他の國々は可能程度に貢献する必要があった、新しく主権を獲得した東南アジアの各國がこれを承認せねばならず、西欧と共に彼等の独立を共産主義の脅威より守る同一の目的の下に協力せねばならぬのである

さらにそれは大西洋同盟と異なりその協議に多くの困難があろうし、極東情勢は冷い戦でなく、熱い戦である、しかしこの同盟は自由と民主主義保持のために偉大な防壁となっている、アチソン長官は先週パリに於てインドシナに対するアメリカの軍事・経済援助の決意を発表し全ての関係ある自由諸國は東南アジアに於ける大災害を防御せんがために物資でも努力であろうとも財源を出しあって協力して欲しい、それは共同の心構や覚悟を施行するばかりでなくよりよき結果を得んがためにと言明した

西欧防衛にも関連せん

もちろんこのことは西欧の防衛にとって重要なものである、もしもインドシナに対する援助が中止されマレーに於ける英國の抵抗が活動を止めるならば、西欧防衛組織にも新しい事態が発生しようこの二、三ケ月間ソ連の政策は断固になって来た、東欧衛星國家の國家主義的要素の消滅に努力が払われ、ロシヤの一元帥がポーランド軍に指揮をとり、またブルガリアにおけるロシヤ元帥の活動は次第に有力となって來た、西欧同盟により防衛組織は進歩し、計画が遂行されて行くが未だ弱いものがある

独佛死活の闘争締結

この月始めにアデイウアー西独首相は欧州議会へのドイツの加入承認を要求し、フランスのシューマン外相は独佛における鋼鉄と石炭共産共同管理問題を提起した、もしも西独とフランスのよりよき理解が発達したならば、それは偉大なる第一歩であり、ヨーロッパ経済の難行の解決ばかりでなく、ヨーロッパ防衛の真の組織の建設となろう現在ドイツは大西洋同盟に加入していない、最初になすべき事はよきヨーロッパ人としてよき隣人として欧州議会に参加する事であろう、時はすでにドイツが自國の國境防衛のために貢献すべきであると考慮すべき時に来ている

しかしドイツ軍備の再建は問題とすべきではない、しかしドイツも将来に於て北大西洋同盟組織に参加する事が出來るかも知れぬ、西独政治家は西独の繁栄と安全保障を充分に理解している、そしてその希望は一に西欧との協力によると説いている

彼等は第一次大戦後ドイツのとった態度をさけようとし、ヨーロッパの他の國々と同様に動こうとしている彼等は彼等の善良さと真実を証明した、そして西欧諸國こそ平等の立場で彼等をヨーロッパ家族の一員として歓迎する事を発見したのである

ソ連、西欧との関係は渦流へ

ソ連は何をしようとしているか絶対に忘れてはならない各々な面がドイツ人の前にブラドつているドイツの再統合、占領軍の撤退、東側國境の問題である しかし西独のドイツ人指導者はあざむかないであろう、我々はドイツ人に偉大なる安全保障を與えねばならぬであろう、また西欧占領軍の一切撤退とさらに東欧の警察軍は急速に増加を示していることも一つの大きな問題である、そしてこの数年の間にソ連の指導者は單に世界を共産主義化するばかりでなく、ロシヤ帝國主義のためにたゞ独りのための目的とたゞ一つの目的の組織を作り上げようとしているユーゴースラヴイアを除いて東欧を含んでソ連に支配されているクレムリンは破壊への道を歩んでいる

冷戦は除々に解決へ

アチソン長官は冷い戦は一時的なものであると明言した、われわれは不和とそしてこの困難な事実の実現のために一層の勇気をふるわねばならぬ、冷い戦は除々に勝つことが出來よう、もしわれわれが如何なる犠牲を払っても破壊を避けることを決心し太平洋同盟や大西洋同盟のような偉大なグループを完成することが出來るならばわれわれは勝利への第一歩を印したといえるであろう、單にソ連の攻撃によりその脅威し、連繋した同盟の偉大なグループは自由諸國の使命の真の基礎であろう、もしもわれわれが二つの世界をえらぶならばわれわれは何れの側にその住を求めるであろうか、自由諸國は強力であり平和保持への希望に輝いている、アチソン長官は力の外交をときその成果はこのロンドン三國外相会議にはっきりとあらわれたのである

アチソン國務長官

ベヴイン英外相

シューマン佛外相

本紙 時事通信・RPと特約
学生新聞の先端きる
さらに外信係を置く

本紙ではすでに学生新聞連盟に加入し学外にわたって正確かつ興味ある記事や解説を読者に提供して來ましたが、昨今における報道陣は対日講和、米ソ関係等をめぐりますます激烈なる様相を示しています

かくの如く変転する世界の状勢に対し本紙では内外の政治、教育、時事に関する解説記事の必要を痛切に感じましたので、我が國、学生新聞界における初の試みとして今回さらに時事通信社、RP（ラジオ・プレス）の快諾をえて特別契約をし、ために外信係を設け本紙独特の編集方針により既定学生新聞の型を破るべく、本号から同通信提供の解説や特別記事が本紙をかざることになりました

時事通信社は共同通信社と共に我が國における二大通信社の一つで、海外にUP AFPの特約通信社をもち、又國内にも優秀なる会員を数多く擁し各方面の専門解説に当らせています

RPはロンドンBBC、ニューヨーク放送、シドニー放送、オーストリヤ放送をはじめ世界各國より流れる電波をとらえ、正確、迅速をもって知られている通信社であります、この機において本紙の通信網はますます拡張され、異彩ある記事が本紙を埋めることゝ思います

関西大学新報

関大平和ヨーゴ運動起る
第三回世話人会開く

現在全國にその関心が高まりつゝある平和ヨーゴ運動の一環として関大学部（一部）のキリスト教研究会、社研を中心とする運動の呼びが盛上って來、その動きも全学的な民主的協議によって推進することになり、その第三回世話人会が五月廿二日経商学舎第一教室において開かれた、当日世話人会にはキリスト研、社研を始めユネスコ、國文研、伊丹会、文藝部、関大新聞、経研、商学会、エス語研、哲研、民科分会、新聞研、学友会、体育部及び教職員組合の世話人が出席オブザーバとして原教授も出席され、議事にてスローガンの決定として一、全面講和の促進二、日本の軍事基地化の反対三、原爆の製造使用禁止の三項目を決議、ことに全面講和か単独講和かの問題について社研中野和好君は

全面講和か単独講和かの問題は当然われわれ日本人の考え及びその立場を世界に訴え、講和條約の理想たる全面講和の意思表示をしなければならない

と論じ賛否の結論として

全面講和をわれわれの意見としてこれをやってもらうため運動する

と全面講和を推し進めることになった、ついでこの運動を推進する組織部に入り校友会各部から代表を出してもらい未だ出ない部は招請することになり文化運動として学内的な運動として行うため教職員組合、教授団、二部学友会、専門部学友会へも運動参加を要請することを決議、現在の世話人会を解散新たに平和ヨーゴ運動促進運動協議会が結成された

京都で平和大会

五月二十三日午後三時半から京都東山円山公園音楽堂にて京都学生自治会連合、全京都学生協議会共催の全京都学生平和文化祭が大学始め新制高校生まで約二千名参集のもと行われ、メッセージでは全学連第四回臨時大会でゼネスト決議、イールズ声明反対を決定したと大会に報告、末川立命大学長は学問の平和目的を叫び、最後に京都大、同志社、工芸繊維大、山城高校等の平和投票発表及び平和宣言等があり関西交響楽団の演奏の裡にその幕を閉じた

京大平和大会開く

京都大学では文化祭最終日の五月二十三日京大同学会主催で「京大平和大会」が法経第一教室にて開かれた、大会にて鳥養学長（代読）は「大学人は平和への意思と勇気を失うことでなくて平和への学究的解明を着実にかつ自由に主張すべきである」と見解を表明また民科協会長末川立大総長もその講演に〝南原東大総長声明〟を支持し大山郁夫、羽仁五郎、野坂参三氏ら三氏も壇上に立ってこの平和運動を激励した

東大平和決起大会

五月廿日東京大学では民主民族戦線東京準備会主催の平和ヨーゴ要求貿易人民大会に参加〝帝國主義反対〟等のプラカードを押立て正午より決起大会を開きトレーラーバス八台に分乗約千二百名の学生が皇居前広場に向った

平和問題講演会開く

去る二十四日午後一時から本学唯物論研究会主催、関大新聞、平和擁護世話人会後援で経商学舎講堂において朝日新聞論説委員でありかつて〝天声人語〟で広くその鬼才を讃えられていた吉村正一郎氏が〝平和問題について〟の演題で語った

慶大平和ヨーゴ運動起す

慶応大学では三田新聞、協同組合、学術研連、十日会の共催で五月十日伊藤代教授、清水幾太郎氏、羽仁五郎氏による平和ヨーゴ講演会が開かれ、講演後懇談会が行われ直ちに有志による平和ヨーゴ委員会準備会を結成した

龍谷大 應援團問題採む
遂に自治会脱退

京都龍谷大学では暴力化したといわれる應援団の解散打倒問題がおこり、新学期の学園に時ならぬアジラ戦が展開され異常な空気につつまれたが、遂に應援団は自治会より脱退することを声明した

この問題は昨年五月開かれた第一回協議員会選挙当時暴力事件が起き、その頃より進歩的なグループによりこの問題が進められ本年度の入学試験当時の應援団の入団勧告にその端を発したものである、この為龍谷大新聞社では同新聞第二十六号の一面トップより大きく記事を掲載しまた同学園の諸校友部会でも共同打倒声明文を発表、またこれに対抗し應援団側では〝打倒文に答える〟の反抗文及び〝学内発疹チフス予防〟と唱えるアジビラを出したが、五月十二日運動部が自主的解散を要求、翌十三日には遂に自治会より應援団の脱退を声明、自治会では十五日協議の結果解散を決議した

市大校舎返還運動起す

大阪市立大学では杉本町の学舎を終戦来占領軍に接収され後市内の戦災小学校等数個所に分散授業を続けて来たが、新制大学発足により学舎及び学校諸設備の狭隘を告げこの杉本町の学舎返還運動を起す事になり、関係諸団体等に呼びかけ占領軍関係当局に要請することになった

本紙編集陣強化
＝新スタッフ決る＝

当新聞部では新学年を迎えるとともに、新部員の入部を得たので役員改選及新組織を構成した

主幹	森谷 具欣	新二
論説委員		
委員長	亀田 博吉	新二
	清水 昭治	國二〇
	泉田 康視	新一〇
編集部		
部長	小川 博司	新二
	明珍 昇	新三〇
	玄 圭鳳	経三〇
	仲江 敏彦	哲一〇
	鈴木 弘二	新一〇
	浜田 貞	新一〇
取材部		
部長	吉田 保	新二
外信係長	中村 嘉雄	経一〇
内信係長	湊田 貫次郎	新一〇
（全員）	萩原 照幸	新二
文藝係長	水野 克正	新一〇
	牟田口 誠	新一〇
写真係長	富尾 克彦	新一〇
	山中 直雄	新一〇
総務部		
部長	堀谷 貞夫	法二
経理担当	田口 新一	新二
	上地 朋典	新一〇
	畠山 義朗	英一〇
	尾崎 康久	政三〇
	吉志 紘一	英一〇
庶務担当	帯原 慶二	商一〇
	西川 武夫	経三〇
内信専任	吉川 昌栄	國四

（但シ〇印は新入部員）

鉄筆

オックスフォード大学の教育学講師C・H・ドビンソン氏はザ・タイムズ紙の付録教育版で「アメリカ軍が日本國内で、うちたてようと努めている民主的教育体制は、果して占領が終った後も長続きするだろうか」という書き出しで、日本人の考え方にかなり鋭いメスをふるっている▼同氏は「國体の本義」は既に、長崎に先立つ二十年間、日本人青少年の心に植えつけられた思想の共鳴であると断じ、この伝統的な日本精神は維持の上において時計の針がもとにもどっているらしいと警告を與えている▼一方トルーマン大統領は「原爆投下をも辞せず」と発言して異状な反響を巻き起しているが、これは明らかに新たなる戦争を予期しているといえる。戦争は果してわれわれに近ずきつゝあるのであろうか▼「平和ヨーゴ運動」とか「反戦運動」なるものがひとりわが國の学生たちの叫びではなく、この運動は今や全世界の青年たちを中心として盛り上げられんとしている。だから戦争は起らないであろうという見方と、戦争の危機を身近かに感じているという証拠であるという二つの見方がある▼戦争が好きで「平和ヨーゴ運動」をやっている青年は世界にいないはずだから、彼等自身が戦争を欲んでいないことは確かである。戦争の原因が心のなかに住んでいるというのなら、平和を望むわれわれの心には戦争の危機は余々ないのであって、現在のように全世界が戦争に対して神経を集中させているときには、政治家・軍人の些細な一挙手、一動がしばしば戦争を誘発せしめるということを忘れてもらいたくない。

きけわだつみの声
日本戦歿学生の手記

この映画は、熱情ほとばしる青春と理性とを無残にも踏みにじった東條の、気まぐれな将棋の駒の如く動かされ飢餓と病苦で死んでいった日本戦歿学生の手記「きけわだつみのこえ」の映画化である

☆…脚本梗概…☆

スタッフ
製作　マキノ満男
脚本　舟橋和郎
演出　関川秀雄
撮影　大塚新吉

キャスト
牧見習士官（沼田曜一）青地軍曹（伊豆肇）鶴田一等兵（稲垣昭三）秋山一等兵（[illegible]）以上学徒出陣、川西一等兵（河野秋武）大木二等兵（信欣三）野々村中尉（[illegible]）柴山少佐（山村聰）大隊長、岸野中尉（原保美）第一中隊長、矢野敦子（[illegible]）鶴田の母（杉村春子）川西の母（英百合子）その他東大佛文科学生、女学生、三高生等多数出演

戦争末期、背景はビルマの最前線……泥濘の道に敗走した軍隊の足跡が続いている。路傍に倒れている兵隊々々、暫く行くと四つ這いになって喘いでいる兵隊二人に〝窮迫なる日本の兵隊さん〟とアナウンスが流れてくる。〝日本の指導者が天皇は神であり、天皇の為に死ぬことが人間最高の使命であると教えておりますが、それがデタラメであることは皆さんはよく御承知のことだと思います。神の兵隊である日本軍が大陸やフィリッピンでムコの良民に行った残虐非道の大殺人が何を意味するかはよくお判りでしょう〟

一人の兵は、泥のついたジャングル野菜の根を嚙りながら「捕虜なんかになってたまるかい、馬鹿野郎！」と叫ぶ。二人はやっと友軍に追いついたが、待っていたものは「部落から年の一団も徴排って來い。それから糧食の支給をする」との大隊長の命令であった。その時入口から入って來た牧見習士官がかつて東大佛文学の恩師（落伍兵の一人）大木二等兵を見出す。これを見た大隊長は「何を教えとつたんだ」「フランス文学であります」「敵性文学だな……フム……面白い……フランス文学というと偉いのは誰だ？シエックスピアか？」教育ある人間を憎む岸野中尉は、軍規をカサに二人を引離し、教育してやると称して大木二等兵を密林の中に連れ込み「コラッ、ポインター探しだぞ、行け！ワンワン、ワン」「コラッ、吠えんか、吠えろ！」「ワンワンワン」と犬の如くあしらう。士官宿所では、山盛の丸焼をうまそうに喰う大隊長、中隊長、病兵宿所では皆をピクピク動かしている。少し離れた宿所で大木は、牧士官より学生運動がたゝって五年兵なのにまだ一等兵だという川西を紹介する。宿所の中では煙草を打つ者、鉄帽の中で粉を搗いている者、古新聞を読んでいる者、ぼんやり口を開けて窓を眺めている兵隊、敗残兵そのものである。青地軍曹は、小隊を率いて爆音に対戦して突撃攻撃に行けと命令する。兵隊達は喚声をあげる。密林に入ったところ敵軍に遭遇、小隊は方向転換、ほうほうの体で逃げ帰る。元の密林では大木と川西が

「こんな所で、こんなザマで捨てる命なら何故あの時命を賭けなかったんだと思います！何もかも後の祭りだ！」「戦争が起らないうちに何とか出來なかったでせうか？河合さん（河合教授）が問題になった時（休職）でも、まだ間に合ったかも知れませんね」と学生運動の消極性を悔いている。

× × ×

部隊本部より野々村中尉と岸野が士官宿所に来た。軍医は懐より数通の手紙を取り出す受取人の数人は、すでに戦死、たった今息を引取った病兵に傍の病兵が読んで聞かす。「オートーチャン、オゲンキデスカ……オートーチャン、カエツテクルマデニ、モツトヨイコニナツテイマス……」士官宿所では、牧見習士官が愛人敦子よりの手紙を受取り、静かにメイ想に耽ける……。手紙を読み終ると牧は紙を裏返し「永遠にさようなら……君の幸福を祈る」と呟く。

かくていよいよ兵山大隊は、歩行困難な病兵を残して撤退することになった。残される病兵は、連れていってくれとせがむ。残留されることは死を意味するからだ。青地軍曹は、苦労を共にした戦友を見捨てるに忍びないと大隊長に進言するが、大隊長は許さない。食糧は乏しく、明日からの強行軍に兵隊は我慢が出來なくなって、遂に隊長の患者を糧に供することになった。翌日小隊の責任者青地軍曹に浴びせられる猛烈なビンタ、上官を喰わしてやると称して、上靴を口に咬わせられる。見かねた川西が、自分達が言い出したことだから自分達を銃殺せよと班長をかばう。その代り貴方方の喰っているものを、全部兵隊にやってくれと叫ぶ川西……。憤怒する隊長、キラメク軍刀、反抗した川西は、密林の中に連れ込まれ岸野中尉に惨殺される。

× × ×

一つ一つ手榴弾を渡された七名の重患……「何とかして歩きますから……お願いです、連れて行って下さい」と必死な懇願も空しく大隊は出発する。病兵達は魂が抜かれたように見送る。木村見習士官の読みあげる勅諭…「心身一切の力を盡し、從容として悠久の大義に生くるを悦びとすべし」病兵達は、耳を貸そうともしない。去り行く部隊を追おうとして這い出す一人の病兵は「待って呉れ……」「待って呉れ……」と絶叫しながら顔を泥中に突込む。ヤケ気味に酔いまくる兵、そつと腹へ手榴弾を入れて出て行く兵、やがてとう然たる炸裂音……「一寸宮中へ行って來る」と言って雨の中に出て行く、苦しそうな呻き声、見かねた同僚が手榴弾を投げつける。

「お母さん」と叫びながら崖下へ転落して死ぬ兵、病兵達は凡て悲惨な死に終る。

× × ×

一方密林を敗走する部隊、蛸壺の中に踊って激しい敵の砲撃を受ける兵隊達、椰の樹が裂ける如く倒れて行く兵、滝の如く降る雨に或る兵は、佐渡情話の一節を唸り、或る兵はラッパの真似をして気を散らしている。暗闇で殺し合う兵、空気を注射し、命を絶つ軍医部隊の自滅が近ずくにつれて凄惨な様相を呈してくる。「大隊長、このまゝでは全滅です。腹を決めて下さい！丈夫な兵を二、三名連れて、われわれだけ先に逃げませう！部隊は全滅ということにして兵團司令部へ報告しておきませう」という岸野中尉、大隊長以下六人は部隊を捨てゝ逃げる。隊長達の逃亡に気付いた青地は「下らん、実に下らん……ナンセンスだ……戦争なんて意味ない……畜生ッ……」と絶叫しながら、木の枝に三角巾をくゝりつけ、悠々と歩調をとり大地を強く踏みしめ、恰も凱旋するかのように「紅萌ゆる…」を歌いながら歩いて行き、遂に地雷の信管を踏みつける。こう然たる爆音と共に木ッ葉微塵……後に残った青地の片腕には焼け焦げた軍旗が握られていた。

小雨が降り始める、燃え立つ火柱……「こわいよオー」と喚きながら逃げまどう兵、弾片を胸にうけた牧は恩師大木二等兵からモンテニュの死について聞き遂に心残なかった最後の閑談を思路に思起えてしまう。「我々は魂の自由を抵当に入れてしまったんだ。しかも最も正当ならざる場合にだ。もう遅い。誤ったのです。何故こんな馬鹿の戦争に魂を預けてしまったのか──」大木の言葉に砲弾の炸裂音と兵隊達のうめきや叫び声が伴奏する。さながら地獄絵図のようだ。

一夜明けて惨たんたる戦の跡は静まりかえり、ボロボロになったフランス詞華集が大木の死体の傍で風にヒラヒラと頁を翻がえしていた。（六月十五日封切）

全学連ゼネストを指令
三日全國一せい突入か

イールス声明に対する紛争、平和ヨーゴ運動、五・四運動、レッドパージ等最近の学生運動はますます熾烈化して政治運動にまで発展せんとしている折、全学連（全國学生自治会連合）では去る二十日から四日間第四回臨時大会を東京に招集し、その大会中全金属系労組ストに同調し六月三日全國一斉にゼネストを敢行するよう指令した

第一日 大会第一日は原宿の社会事業会館（元海軍会館）で午前十時代議員百七十二名、評議員九十九名参集して開会され、議長團に高沢（東大）堀越（早大）細川（東大）の三君を選出、当初に本大会の資格について問題となつたが代議員数が新制大の切換のため不明であるため全國協議会として開催したい旨の提案があり大会を開くことを決議した、大会は議事日程として一般報告、全労連の金子健太郎氏（中執委員長）および全青婦伊藤青年部長よりのメツセージ、それに各地方学連よりの報告があり、地方報告では各大学での平和ヨーゴ運動イールス声明反対運動等が報告され午後四時閉会した

第二日 第二日は午前十時から九段の家政学院講堂で開かれ東北、信越、北海道の三地方学連、神戸学連の報告があり、武井委員長より五つの基本的任務①平和のための闘いを通じて帝國主義の復活を押えねばならない②平和を欲するわれわれは平和に対し挑発する勢力と闘わねばならない③ブルジョアジーと闘わねばならない④南原氏のごとく平和の闘いが孤立主義に陥らぬため國際的平和勢力と手を組まねばならない⑤帝國主義者は平和闘争を乱しその尖端を切るイールス声明は学問の自由、思想の自由を奪うものである の五條件を提出確認され、更に全金属系労組のストライキに同調し卅日には東京都内、六月三日には全國一齊に学生ゼネストを行うことを決議した

第三日 第三日午前十一時より家政会館で開かれ総代議員数三百二十七名中出席者百六十五名となり大会が成立した午前は学校種別協議会の提案があり、午後は武井委員長より
①平和を守る運動のため六月二十日ごろ迄百万人の平和投票を獲得する運動を展開
②全面講和締結、占領軍撤退を行動のスローガンに進める
③イールス声明撤回を学問の自由を守るため直接的な運動として推進する
④自治会を学生の世話役的な機関でなく行動的な組織たらしめる
⑤レッド・パージを勝利に導くため「反帝」をはつきりと先頭に立て運動を行う
⑥運動形態として一つの学校で行つたことを全國に拡大していく
と、運動方針の提案があり、承認された

第四日 第四日は財政問題、機関紙、戦没学生記念事業等が提案採択され、また九州地方学連中執委から中執委不信任案が提起されたが採決の結果否決され次いで大会決議に入り①イールス声明撤回に関する極東委員会への請願文②学問の自由侵害に対する抗議文③フレデリック・ジョリオ・キュリー氏の原子力委員会追放への抗議文④全労連へのメツセージを採択し
平和と独立のため労働者、農民勤労人民および平和と祖國の独立を欲するすべての人々とともに闘う
旨の大会宣言を採択午後六時半四日間にわたる大会を閉会した

市大商大ゼネスト突入！
一日のデモは延期に

大阪市大、商大では全学連の六・三ストに呼應して六月一日朝より三日間ゼネストに突入した
一日は朝から雨のため学生が百五十人程しか集まらなかつたので予定の市中デモ行進は一時延期午前十時頃から緊急学生会議を開き学生の統一強化と教授團との同調を計り午後より各大学へアツピールを行う事になつた
なお現在一般新聞通信社の取材を拒否している

全学連の組織と現状

JIJI PRESS 本紙特約

去る五月二十日から二十三日までの四日間にわたつてひらかれた全学連（全日本学生自治会総連合）の第四回全國大会は、いろ〳〵の意味で注目をあつめた
廿三年の九月に結成された全学連はその年の十月に初の全國大会をひらき引きつゞき二十四年の五月商大で第二回おなじく十一月に早大で第三回全國大会を開いており今回も同書記局の〝五月を反戦運動のヤマとする〟方針によつて開催の予定にあつたものである、たゞ例年のような東大ストをきつかけとした全國ストへの波のつくられぬ前に、今年は東北大事件と東大、早大ならびに本家の全学連書記局に共産党細胞粛正の嵐がやつて來たため、規定の議案とは別にさしせまつた当局の問題を打開する方策の検討にはいつたのである、全学連を〝解剖〟するに先立つて、まずその当面の闘争方針をみよう

当面の闘争方針

四月の新学期以降、活発化した学生運動の方向はさる三月十、十一の両日東大山上会議所でひらかれた第二回全学連都道府県代表者会議で決定した方針にもとずくものであるが、これは昨年の第三回大会の決定方針を急速に修正して緊迫した事態に対処するための運動方針と決定したものである、同会議には新制大学自治会代表者会議があわせて行われ、いわゆる〝國際プロレタリヤ主義〟を全学連の決定的な基盤とすることになつた「東大意見書」をはじめ各集会における全学連の積極的な党批判と全國的な反帝運動への指事はこのときから一段と強硬に行われはじめた、その主要な決定事項は今後の闘争方針として次のような点があげられている

1、平和と独立のための即時公正なる全面講和を獲得する、帝國主義者は公然と戦争のための準備をしている、闘いの根本は反帝・反ファツショ闘争である。われわれは日常的な問題にこの基本的課題を浸透させねばならない

2、民主的教育と学生々活を守るために闘い、この中には①レツド・マークによる追放②定員法[illegible]の首切り③教科内[illegible]・政治[illegible]・育[illegible]

3、大学管理法はレツド・パージを中心とするあらゆる敵の攻撃のなしくずしの形で行われていることを銘記せよ

とし、とくに反帝・反ファツショ闘争につらぬかれた統一戦線を教職員や他の民主團体と共に結成して大衆行動へ進むことを示している、しかしこれだけでは共産党の方針と大差はないが、この時來合した党青年対策部員と根本的に対立したのは、当日の自己批判の結果、十八拡大委の決定方針をけつてゼネストを強調したことである
即ち昨年の六・二六闘争の後、日常闘争、地域闘争という党方針による闘いがつゞけられ、授業料問題や育英資金の獲得のみに終始していたが、その間〝赤い教授〟追放の火の手があがり学内保安令や補導係の強化となつて学生運動に対する弾圧の機会を作つてしまつたといい、これは党方針の根本的な誤謬を露呈したものであつて、学生運動こそ現段階の革命的任務を遂行し得る條件にあるとして、青年対策部をむこうにまわして痛烈な批判を浴びせ「ゼネストこそ決定的な意義をもつ」と結論を下したのである

傘下に三百六十校

さいきんの全学連の組織をみると、書記局の構成は中央執行委員長（武井昭夫）副委員長（七俣博細川清志）書記長（高橋英典）書記次長（瀬谷純一）以下十六名の中央執行委員からなり、うち細胞は武井（東大）以下十一名といわれている
傘下の地方学連は北海道十五校東北地方学連七校、関東地方学連九十六校、北信越地方学連二十八校、東海地方学連五十六校、関西地方学連六十八校、中國地方学連三十校、四國地方学連三十二校、九州地方学連二十六校、合計三百五十八校となつている（いずれも三月十五日現在旧制大学高専をふくむ法務府調査）
このうち正式届出のないものは東北地方では青森縣学連の三校、北信越の富山縣学連四校、関西地方の和歌山縣学連五校、四國の香川縣学連四校、愛媛縣学連五校、高知縣学連二校、中國地方学連書記局をふくんでいるが、未組織または解散による実態のつかめない岩手、山形、秋田、福島、茨城、福井、鳥取、島根、徳島、佐賀各縣学連が入つていないので、校数の明確なところではないが、もともと全学連の発生の地盤ともいう旧制大学はすでに卒業をまつ二学年のみとなつているという実情である

〝志賀色〟に彩られる

全学連の二回の大会の議題になつた新制大学、高校加盟の働きかけは、昨年あたりから学校当局および文部省の補導方針によつて阻害されていたが、さいきんでは、新制大学にあつては学内規則学部共通細則によつて学生の政治活動を禁止する方向となり、新制高校ではガイダンスとして生徒自治会のあり方について指導し、いわゆる自治会という名称から廃止させて「生徒会」にもつてゆくことになつているので、新制は旧制とまつたく切りはなされた存在となつている
すでに新制大学には、旧学生自治会とは別個の組織がつくられ、全学連への参加は許可されていないところもあるし、こうした客観情勢は、全学連の働きかけが強くなるほど危険視する傾向にある。ところが、全学連内細胞のうちには、昨年六月ごろから〝志賀派〟イデオロギーが強くなり、しだいに共産党青年対策部の指導による「日常・地域闘争」にあきたらなくなつた風潮があらわれてきた
全学連の主体的行動と同時に大きな誤算がこのときにはじまつたといわれる
まず具体的には、同年七月一日におこなわれた中闘委では、冒頭「商業新聞の記事は、全学連および学生運動を不利にみちびくものである」として新聞に対する取材拒否という決議をおこなつた
十一月の第三回全國大会にも非公開という態度をとり、反帝運動の一環として反米闘争という具体的方針を決定した、新制高校にたいしては、第二回大会の方針にしたがつて、各地では地盤獲得のための闘争としてサンマー・スクールを開設したが、「学課指導のみで組織化されなかつた、しかし教育の危機の訴えにはいちおう受入れられた」（第三回大会・石川縣代議員報告）というような結果で根本的にはそうした日常闘争よりも「新制高校において民自党代議士が政治運動をおこなつたのを摘発し、教育委員会を混乱におとしいれた」（同・長野代議員報告）ような過激派的闘争になつていたものである

〝わが道を往く〟気配

書記局細胞の解散は、党内問題としていつさいの発表をさけているが、学生運動をリードしていた志賀・宮本のラインが〝志賀意見書〟発表後党内分裂をさけるとして、党主流に妥協した関係もあり学生細胞の帰すうはたんに党内問題としてのみ解決することは困難な情勢にあるとみられ、地方学連の大勢も手つだつて〝わが道をゆく〟とする流れが強くなつている
全学連書記長のまえ、三月二十六日の党指令は「大規模な大衆行動を行え、とくに新制大学の闘争を強化せよ」「地域闘争から全國闘争へ、そのため新制高校を戦列に参加させよ」というものであり、この直後法政大学でひらかれた中闘委に伊藤律共産党政治局員がとくに説明したが意見の一致をみずついに党本部では解散の強硬措置にでたのであつた
このうちには、すでに〝東大意見書〟にならう各大学細胞の地域闘争の経過報告書を作成しているところもあるといわれ、今回の全國大会の決定方針によつては、党とは別個に國際的連絡をもち、将来のある時期に手をにぎるだろうといわれている
なお今後の全学連の運動方針はさいきん発せられた次の点を骨子とする指示第三号によるものとみられる

1、東北大の闘争を防衛し、全國学生の反帝反戦の自由擁護運動に発展させよ
2、弾圧に抗議せよ
3、あらゆる具体的闘争と日常的要求をこれに結集させて斗え
4、労働者、青年文化人との共斗を強化し、全人民の中に反帝反戦の斗いを拡大せよ
5、斗争委員を組織し、最大限の力量を発揮して可能なところから抗議ストに入り、反戦同盟を結成せよ

そして、反戦同盟によつて文化人の平和運動とも合同した組織をもつて、現在の党分離による質的に低下した組織力を維持しようという方向に動いているようだ

人類の自由のために
＝米国予算の世界的意義＝

和歌山新聞主筆　藤田進一郎

さる三月すえから審議中であつた米國の一九五〇年七月からはじまる明年度の予算案は、五月十日下院を通過した。フーヴァー委員会の報告による行政機構改革案の実現を見越して、原案から六億ドルだけ削減され、総額二百八十八億九千四百三十四万百六十四ドルとなつている米國はむろん世界はじまつて以來未曾有の厖大予算で、日割にすると、第一次世界戦争当時の日々の経費に相当する。しかも五月十五日上下両院協議会で承認されたマーシャル計画第三年度分をふくむ明年度対外援助費三十一億二千百四十五万ドル、ならびに國防費その他の固定費目は、「別の法案で取扱われているから」國庫支出の全部を総計すれば非常な巨額にのぼるであろう。現代世界において指導的地位を占むる第一流の國家的勢力についての一概観といわなければならない。

◇

さらに驚くべきは、このうちの約半分百四十二億九千六百四十八万三千ドルまでが、國防費に充てられていることである。これは第二次世界戦争の前夜一九四一年度の連邦予算総計とほゞ同額であり米國が現存する全資源、全生産設備、全労働力をあげて、三週間ぶつ通しで全能力を発揮して初めて賄い得るということである。ところがこれは切りつめられるだけ切りつめてのことで、絶対に安全という程度にまで引きあげれば[illegible]年額[illegible]にのぼるだろうといわれる。
この米國の予算と、イギリスの予算とを比較するのは興味のあることである。イギリスの明年度予算案は、四月十八日クリツプス蔵相によつて提出されたが、総額三十四億五千五百万ポンドで「揺籃から墓場まで」のゆきとゞいた社会保障制度のために、この國防費とは同額の七億五千七百万ポンド（総予算の二二%）が割かれている。さすがに労働党内閣の誇りとする福祉國家である。これを見ても英國ももはや戦争のことはすつかりあきらめてしまい、たとえ将来第三次世界戦争の起るようなことがあるとしても、それは米國に一任しておこうという肚が見えすいているのである。

◇

事実また原爆、水爆など、大量破壊力も強大な代りに、その製造費もかさむばかりの最新式武器の登場から戦費が以前よりも三倍も五倍もかゝり、ほとんど計算をゆるさないほどに高価な戦争を遂行し得る実力を有する超強大國家は第一次、第二次と世界戦争を経ることに漸次淘汰され落伍してしまつて、今はたゞ米國とソ連との二國だけが生存適者として残つているばかりである。これからの戦争の主役は、この両國で、他の諸國は英國としても常に従属的役目を果すにすぎない。かくて、米國こそ實に西欧民主主義の代表者としてトルーマン・ドクトリン中にいわゆる東欧の全体主義と侵略主義とに対抗して、世界人類の自由の守護者とならなければならない、唯一の戦争可能國としての運命を背負いこんでいるのである。

◇

世界には、平和より貴重なものがある。それは自由である。平和も大事だが、自由はそれよりも大事である。しかも絶えず第三次世界戦争の勃発に脅かされている現在のような冷い戦争のもとにおいては、名のみがいかに平和でも永続する自由をもつことが出來ない。戦争の脅威を避け、かつ絶対の勝利を保証するためには、あくまでも勢力の均衡を保持し、いわゆる武器的平和より外に道がない
これはいかに高價でも唯一の道だから選択をゆるさない世界の指導者、自由の守護者としての必然の義務であり、使命である。米國下院がこの巨額の國防費を可決したのも独立自由の鐘のひゞきを傳えて以來の國家的傳統によるこの世界的義務と使命とを考慮してのことであり、上院においてももちろん可決確実にいたるであろう。
これは單に米國一國だけの予算ではなく、すべての民主主義國民自由のための予算というべく、米國建國の高邁深遠な理想を、この全人類的危機にのぞんで具体化した世界的意義について、切実な関心がもたれるのである。（筆者は本学新聞学科教授）

早大などスト確認
東大文、経、理は確実

東京大学では五月三十一日午後二時ごろから各学部ごとに学生大会を開くが、今のところ文学、経済、理学三学部は六・三ストに入ることは確実で、法学部は現在中立、農、医学部が否決の空氣が強い
また都学連の傘下では外語大、理大、早大文学部、都立高校、新制東大の五校がストを確認した

学生デモ大会
＝東京＝

学生による最初のデモ運動として注目されている都学連、青年祖國戦線、朝鮮学生同盟、留日中國学生同学総会共催の「東北大斗争支持、自由ヨーゴ、東京都青年学生蹶起大会」は五月十六日、日比谷音楽堂前広場にて挙行された

九大学連で新大自治協結成

九大学連は五月七日九州地方新制大学代表者会議を開催し「九州地方新制大学自治会協議会」を結成八・九両日の第五回九学連総会では「イールス声明反対、戦争反対」そのほか数項目の斗争スローガンを可決した

スト決議は39校
学校側との対立つゞく

31日現在

三十一日現在全学連本部へ入つている情報によるとスト加入を決議したのは三十九校である
東大、京大経済学部でもそれぞれ三十一日投票、学生大会を開いて東大は二日開票、京大経済学部は参加を決議したが、一方学校当局は東大、京大、大阪市大、商大とともにスト認めずの態度を表明、学生側と対立している
京大では会場内に私服警官二名が侵入していたため、学生側と警察側との間に紛糾を起し会場は混乱したが、学生側は改めて対策を練ることゝして一應落着いた

全日本学生新聞連盟 全国大会

全日本学生新聞連盟では來る十、十一日の両日にわたり法政大学（予定）にて定期全國大会を開く

関西地方 各大学の動き

京　大

全学連の六・三ゼネストに対する京大同学会の動きは各学部の自治会により決定するが、現在のところゼネスト参加の空氣が強いこれを各学部にわたつてみると
◇法学部　有信会（自治会）では目下委員改選中で、六月一日開催予定の法学部学生大会により決定するが現在の所革新派が強い
◇経済学部　同好会では五月卅一日学生大会を開きこの問題の突破口となろう大勢は参加に強い
◇農学部　自治会が新編成された所で動きは不明
◇医学部　別に積極的ではないが医学部内反戦学生同盟の動きが活発で大勢は六月一日の学生大会で決定する
◇文学部　現在の所革新派勢力が強い
◇理工農学部　現在の所不明
◇新制大　ゼネストに入る模様強し

同　大

五月廿九日一時から法学部自治会が行なわれ卅一日午前十一時より学生大会を開くがストへ参加まで態度が決まつていない

立命大

全学連に加入している二部自治会は参加決定で、一部は未だ決定していない

京都医大

五月卅日の委員会で審議するが現在の所昨年來の学生処分問題があり予測は出來ない

神戸大

現在小松問題の発生がイ声明に引き続き小松問題で斗かつて來た以上、イ声明と斗かつて來た事になり六・三ゼネストも現在の空氣が続くかぎりストも辞さないだろう、大勢はスト参加に強し

関　学

自治会運動がイールス問題等でようやく動き出そうとする氣配で未だスト問題も具体化していない

阪　大

ストをやる最も可能性の多いところは南分校であるがこれさえも最後的態度を決するに至つていない、北分校は行わないことを決議し、医学、理学、工学、新制学部においては行わない方向に動いている
ただ平和ヨーゴ、イ声明反対という点で講演会、署名運動、映画会を催すことになつている

学生記者取材拒否さる

五月十七日早稲田大学法学部滝沢久保田両君が東京戸塚町附近を通りかゝつた時、金網商吉井氏宅で税務署から税金滞納の強制差押えに対し吉井氏が生活の窮乏を訴えて延期を申し出ていたが滝沢、久保田両君が所得税法第五十二條の法的解釈をもつて抗議を申し入れもみ合つていたが、四時半頃戸塚警察署に[illegible]両君と民商の者一名を公務執行妨害現行犯として検挙したが、これに対し早大では学生大会を開いたが一方この事件を取材に戸塚署におもむいた早大新聞記者四名が取材を拒否されたが、読売、共同等の一般記者に対しては自由に取材させていた事が学生記者團にわかり抗議を申し入る一方全学生新聞連盟でも抗議代表團を出し戸塚署長は「忙しいから」と称し面会を拒絶した、これに対し廿日、廿二日両日学生新聞代表と警察側が強力交渉中である

東大自治会 眞相発表会開く

東京大学自治会中央委員会では五月十日東北大自治会代表二名を招き東北大事件、五・四運動デモ事件の眞相発表を行い、参加学生は「帝國主義者を学園から追放せよ」などのプラカードを立て演説を行つた

名大世界文学講座開く

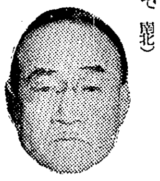
名古屋大学文学部は今年度から二年継続の世界文学講座を企画、学士院会員東北大名誉教授土居光知博士を招いて五月から開講された

曲学阿世

★…天野さんが文相を引受けた時「青年諸君はまず東西の古典を身につけるよう心がけなくてはならない」と語つている。フォン・ケーベルの高弟というよりも「三四郎」の廣田先生のモデルといつた方が通りがいゝだろうが、一高でドイツ語と哲学概論を担当していた岩元先生の流儀だ。先生は東西の古典を伴侶とし一生独身で通し、一冊の著述も公けにされなかつた哲人だが、門下生の安倍能成、天野貞祐、九鬼周造、岩下壮一、三谷隆正、南原繁、田中耕太郎、森戸辰男等々は、哲学に志すと法律経済学に志すとを問わず先生の亜流をくんで、直接斯学の原典に志した。時流に超然として真理に勇往邁進する点において、以上の諸先輩は儒林列傳の轅固生に頭を接するといえよう。

☆…轅固は「公孫子正学を務めて以て言え曲学以て世に阿る無れ」と後学に諭したというが大史公は儒林列傳に於て当時の「諸の諛儒」にひきくらべて権勢に屈せず「正学を務めた」斉人と絶讃してる。
したがつて〝曲学阿世〟の徒と罵倒されることは正学派にとつてはヴイクトリア王朝の淑女がプロステチユートといわれたのに等しい東大総長南原繁先生が、「ワンマン」の暴言に怒髪冠をついたのも無理がなかろう。

★…しかし〝曲学阿世〟がはたして学問の邪道かどうかはそう簡単にはきめられない。もちろん世間の鼻はかりうかがつて自分の立場をもたない諛儒は世間の流行を追うに汲々としているアロハのあんちやんと寸分違わないが、そうかといつて生涯「閉戸先生」をきめこんで「東西の古典」に親しんでいるばかりが能でもなさそうだ、ラスキー教授は「アメリカ民主主義」のなかで「アメリカ人はまじめかつ実際的な國民だ。自然から文明をもぎとつた國民がたんに頭脳の獲得のために教育に関心をもつのを期待するのは、余りくの見当違い。アメリカ人にとつて教育は、あくまで実際的な仕事で、アメリカの社会で有意義と目される職能を十分果たすことができるよう市民を訓練するのが教育の使命である」と述べている。



★…「学を曲げて世に阿る」ということ、いかにも聞えが悪いが、教育の一したがつて学問の目的が「実社会に有意義と目される職能を、身につけること」だという立場をとれば、フォン・ケーベル先生がドイツから移植した古典主義が一應再検討されねばならぬのではなかろうか天野文相も四十年前に岩元先生から教えられた教養至上主義を金科玉條としていたのでは、共産党細胞との太刀打ちがむずかしいだろうし、南原総長も〝曲学阿世〟を毛嫌いしていたのでは「有為の市民」を訓練できない。（東西生）

小泉八雲の日本
＝生誕百年祭に当りて＝

中井駿二

一

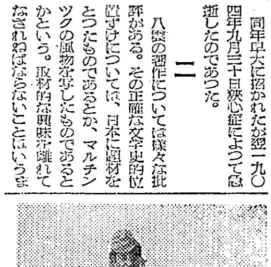
この六月は小泉八雲が生れてから百年になる。編集部から生誕百年を記念する一文を求められた機会に、彼の辿つた足跡を調べ、様様な感慨を得た。この二三を記して私の責をふさぎたいと思う。
一九〇三年、八雲が早稲田大学に招聘された時、提出した履歴書によると、彼の生涯は次のように書かれている。
「小泉八雲（ラフカデイオ・ヘルン）元英國臣民。一八五〇年アイオンヤ列島リユカデイアに生る。アイルランド、英國、ウエールス（及び一時は佛國）にて成人す。一八六九年アメリカに渡り、新聞記者となり、ニユー・オルリアンス新聞の文学部主筆となる。一八八七年より一八八九年まで、佛領西印度のマルチニークに滞在、一八九〇年ハーパー書肆より日本に派遣せらる。出雲松江の尋常中学にて英語教師の地位を得。一八九一年の秋熊本に赴き第五高等中学校に教えて一八九四年に至る。同年神戸に赴き暫時「神戸クロニクル」の記者となる。翌年東京帝國大学に招かれて講師となり一九〇三年まで英文学の講座を担任す。その間六年七ケ月、日本に関する著書十一部あり」
同年早大に招かれたが翌一九〇四年九月三十日狭心症によつて急逝したのであつた。

二

八雲の著作については様々な批評がある。その正確な文学史的位置ずけについては、日本に題材をとつたものであるとか、マルチニツクの風物を写したものであるとかという、取材的な興味を離れてなされねばならないことはいうまでもない。しかし日本に関した著作が欧米の読書界に與えた影響という点からすれば、芸術的な価値ずけとは別に多くの問題があることが忘れられてはならない。
明治以後、日本の文化が近代化するために、多くの外人の協力が加わつていたことは事実である。学問の上に、芸術の上に、また生活文化の上に、日本はそれらの人々に導かれて近代化の速度を早めたのであつた。それらの人々も勿論その心底において、日本に対する深き尊敬を蔵していたことは明かである。しかし多くの外人先達が考えたことは古い日本を出來るだけ早く脱皮せしめて、新しい日本を築くということであつた。ヨーロツパやアメリカの先進國と一刻も早く同じ歩調に立つようになることであつた。時の為政者達も、外人に協力を求める態度は、古い日本から新しい日本へ、封建的農業國の日本から近代的工業國としての日本へ急速に轉換せしめるために協力を得るというものであつた。その中にあつて一人八雲のみは違つた態度を持していた。八雲が愛したのは日々に近代化されようとする日本でなくて、古い日本であつた。
生涯自宅に電話をとりつけさせず、電車に一度も乗つたことのない、白い堅いシヤツとフロツクコートを嫌い、ヨーロツパ風な儀礼的な会合に出席することすら拒みつゞけた八雲にとつては、近代的ということは洋館や騒音と共に嫌悪すべきものであつたのである。
八雲が日本について書いている場所は、最初に赴任した出雲松江の風物であり、熊本や神戸についてはあまり興味を持たず、東京も大久保、雑司ケ谷、戸山ケ原などの鄙びたところであつて、奈良や京都についてではなかつた。
古い日本を愛したといつても、その中でも最も人に知られない陰微な存在である庶民の生活や、風習や、傳説であつて、豪壮なものや壮大なものには興味を惹かれなかつたことは八雲の思想や人生観を知る上にとつて看過してはならないことであろう。

三

名も知れぬ路傍の花の、はかなき美しさに心ひかれ、社会的にはほとんど存在を認められなかつたような魚屋や八百屋と心ゆくまで物語ることをこよなく愛した八雲にとつて、不正直と尊大とは最も忌むべき悪徳であつたのである。
八雲が生きていた時代は、世界的にいつてファン・ド・シエクルの時代、いうところの世紀末の時代であつた。ヨーロツパにおいては科学が勝利を得たあとの、精神の生活のわびしさが嘆ぜられ、物質に対する心霊の反逆が現れた時であつた。その意味において彼もまた明らかにファン・ド・シエクルを代表する一人の作家であろう。ボードレエルが宗教に、ヴエルレエヌがアブサンに、ランボオがアフリカに逃れたように、彼もまた東邦へのエヴアジオンを試みたのであつた。そこで彼が見出そうとしたのは、絢爛たる古文化の遺跡でもなく、整然たる封建の遺制でもなく、奔騰する資本主義文化でもなかつた。つゝましやかに社会の片隅で、偽りなく暮す名もなき人々の、しかも廉直で謙譲で清潔な心であつた。その中に潜みのつてそこに彼の夢を充たそうとし、その夢は遂にこの世のものならぬ怪奇の世界へとは入つて行つたのであつたが、怪奇の世界においても、捉えようとしているのはしずかなまことの心であつたといえるであろう。
八雲は古き日本を尋ねて、その最もよきもののいくつかは確に探り当てゝいる。爾來幾変轉、三つの大きな戦争を経た日本には、八雲が見た日本の面影はもはやとゞむべくもないであろう。八雲が最も忌み嫌つた尊大と物質への渇仰のために、日本は頽落した。八雲が愛し求めた日本の心は、もはや果して帰り來ないであろうか。それは日本人の心情の問題として、また新しい日本の文化のパターンを築く上からいつて、決して意味のない問いではないと私は考えている。（本学文学部次長）



〝きけわだつみの声〟観賞会

今次大戦における犠牲者として、若き生命を無残にも飢餓と病苦との中にたゝき込まれた戦没学生たちが、無智と困迷と徒労との中においてわずかな時間を見出して書き残した心からなる「戦争への反逆」の手記はわれわれの肺腑をえぐるものがある。
今日もみどりなす海原に白き潮が渦巻いて若人の慟哭を傳えて來るそれは戦場に捨てた尊い生命の「平和」への絶叫である……

とき　6月18日（日）午前10時から
ところ　朝日会館
招待券は学生大会（期日未定）席上にて配布す

主催　学友会
後援　関西大学新報

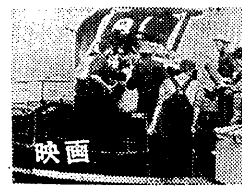
イールズ声明について
社研主催で講演会開く

五月十七日経商学舎十五教室において現在各方面の注目の的となつている「イールス声明」について社研主催のもとに大阪経大教授中村九一郎氏の講演会を行つた
中村氏はその豊富な学識、経験より学生運動の三類型を述べ、わが國における学生運動は帝國主義の圧制下にあつた植民地における学生運動その代表としての中國における学生運動に範を求むる要があることを力説し、イールズ声明は國際帝國主義勢力の一環として理解さるべきであり反共は戦争への道であり一切の反帝國主義勢力、ブルヂョア自由主義者を弾圧する口実であつたことは歴史を省りみても明かであると強調した

變貌する新聞界
朝、毎、読の中国進出なるか
日経の大阪刷りは決定的

さきに東京では日本夕刊、大阪では産業経済とが戦後における初のオール四頁建発行という形態をとり新聞界における統制面をいち早く脱したかの感があつたが、これが業界に及ぼせる影響と用紙の統制撤廃を策するメーカーによる生産能力とにより新聞用紙の統制撤廃も案外早く実現するのではないかと見られている
新聞のワクが外されることにより四頁建発行を希望している社は今のところ朝日、毎日、読売、中日、道新、西日本、大阪、東京、日経、時事、山陽、神戸、京都など地方有力紙をも含む三十六社であるが、発行部数からいつて全國十一番目の中國新聞（広島）は去る三月七日付の同社社説により用紙撤廃問題を時期尚早なりとして四頁建発行を希望していない、その説くところは用紙の統制撤廃により大資本を有する全國紙が地方にどんどん侵入し地方の中小新聞を喰い倒すというにある、事実日本経済の大阪進出は確定的で目下北浜に地上八階、地下一階の堂々たる鉄筋コンクリートにて新社屋を建設中で、従來産経の一人舞台であつた大阪にも日経が相当喰込むことになるであろう、これまで東京本社だけで印刷していた読売新聞が関西にて刷るといわれているが、大阪では大朝、大毎が古くから根を下ろしているので中國総局（岡山）で刷り、西は九州東は名古屋の辺りまでをも含めて印刷されるのではないかと見られている、又大阪では名古屋の中部日本が関西版の進出をねらつており、大阪支社では目下読者獲得に大童である、同社がこの程完成せる四色刷輪転機は新聞印刷界における画期的意味をもつもので、広告界への影響も大きなものがある、すでに四色印刷による同社試験刷りは四月二日に行つているが、その成績は甚だ良好であつたものらしく六月より一般紙面により読者にお目見えするとのことである、今迄における三色刷は朝日新聞社が昭和二十四年二月に紅、緑、黄の三色にて香料入りを使用し、又東京新聞は同年七月二十八日付紙面にてアブリ出しインクによる広告を出して業界をアツトいわせたが四色刷りは中日が最初の試みである
それに次いで、今話題を巻いているのは朝日、毎日の北海道、中國地方への進出であり朝日はすでに北海道に新社屋の完成を見、毎日は東京本社に新品輪転機二台が待機している、一方これまで大阪より発送していた四國向けの両紙が時間的関係から地元紙に侵されるので、中國地方に社屋を置き主に四國向けに発送されるらしいが候補地としては広島が上つているようである
このような現状からして地方紙は危機におとし入れられることになるが、これに対し地方紙新興紙側は従來の合併推進を緩和することにより協力、合同による販賣網の強化に努めるのではないかと思われる
用紙の統制撤廃の問題は新聞界にこのような激変をもたらすものであるが、進んでは購読料のワク撤廃にも及ぶし、又現在十八段、十七段、十六段等にして活字を小さくしているのも結局用紙の点に問題があるのであるから、用紙の統制が消えれば十五段、十四段位に立かえるのも当然と見られ、現に昨年末大阪、西日本をはじめあちこちで十五段制による新活字の鋳造及び新活字による試験刷り等が極秘裡に行われている、四頁建発行も九月頃から実現されるのではないかと一般新聞人は観測している

眞実の記録
「暁の出撃戦」（英クラウン映画）



×…この記録映画は、イギリス政府直属の製作ユニツト、クラウンの製作であり、戦時中に作られたものであるから、一應は戦意昂揚の宣傳映画であるといつているが現在日本人がこれを見てもすこしもその價値を減じることはない、それは眞実を記録しているからである。
×…これにも筋はある、撃沈された商船の乗組員が救命艇にのつて漂流する。輸送船がそれを救いに行く、救命艇をオトリにしてドイツの潜水艦がその商船を撃沈しようとする救命艇の人達はそれを知り自分達を犠牲にして迄で商船を救おうとする。が、ついにその商船は一隻を失つた。しかし潜水艦も撃沈される、一同は救われた。
これを映画化するには、明らかに劇映画的方法によらなければならない。即ち、実写ではない。しかし効果は写実的、記録的である。
×…というのは、監督者（ペツト・ジヤクスン）撮影者（ジヤツク・カアデイフ）出演者（全部非職業人）等の全員が、非常の事態に置かれたイギリス人の自信、ユウモア、人間愛を心底からの誠意と努力をもつて、海の生活の事実そのまゝに描き出そうとしたからであつた。
なるほど筋が単純すぎて少々冗長である点もあるし、筋としては最後の潜水艦の撃沈はすこしムリにもおもう。また色彩にも時と場合で、乱れがあつた。しかし眞実その場にあると同じ感覚に生かされた出演者の言動は、[illegible]を極力排した誠実な演出、全体の統一よりも現場の人の顔の色、海の色、空の色、表現した色彩処理は、この映画を[illegible]ほとんど純粋[illegible]
×…海と海の魅力もさることながら、イギリス人の図太い信念、ユーモアを忘れない生活態度、現実に即した理性的処置、などを知るのに、非常に好適な映画であるといつてもいゝほどのドキユメンタリ的佳作たらしめた。
（天然色映画・NCC配給）

訂正

前号「千里山ページ」の記事中、國際大学とあるのは國際科学献協会の誤りにつき訂正いたします
同、同協会は女子総合学園設立のため京阪神電鉄と契約したものであります（学長談話の記事参照）

お断わり
和田教授の〝新らしき愛情について〟は紙面の都合上、次号掲載といたします
編集部

大阪府指定食堂
天六
宝來
新京阪天

美の表現は調髪から
迅速・叮寧・技術をモツトーとする……
（営業時間）
自八時三〇分至二〇時
千里山経商学舎内
天六学舎内
関大生活協同組合理髪部

The Mainichi
世界を識るために実用英語の勉強に必要欠くべからざる東洋最大の日刊英字新聞「英文毎日」用語文章極めて平易、お申込は最寄りの新聞販売所又は直接本社英文毎日営業部へ
購読料一ケ月　九十八円
見本進呈
日刊英文毎日
毎日新聞社

生活協同組合
学内直営
食堂
関大図書館裏

関西大学指定教科書
及図書出版
紅帆社
大阪関西大学　天六学舎前
吹田市千里山大学前
電話吹田（35）5170